

# ニューラル機械翻訳における ミニバッチ構成法の違いによる 影響の調査

奈良先端科学技術大学院大学  
知能コミュニケーション研究室

森下 睦・小田 悠介・Graham Neubig・吉野 幸一郎・  
須藤 克仁・中村 哲

言語処理学会第23回年次大会  
2017/03/16

NAIST<sup>®</sup>

# ニューラル機械翻訳におけるミニバッチ

- ニューラル機械翻訳の学習には時間がかかる
  - ミニバッチを用いた高速化が主流
- **ミニバッチ**: 複数のデータをまとめて学習
  - **高速化**: 行列計算の回数が減るため
    - 特に行列計算が得意なGPUを用いた場合顕著
  - **勾配更新の安定化**:
    - ミニバッチ中の平均lossを用いて勾配更新を行う

# パディング

- NMTの学習データは**可変長**
    - 可変長データを固定長に揃える必要がある
- **パディング**

She

lives

next

door

to

us

</s>

I

have

to

write

my

thesis

</s>

John

hit

a

ball

</s>

</s>

</s>

Break

a

leg

</s>

</s>

</s>

</s>

# パディングの影響

- 1イテレーションにかかる時間はミニバッチ内の最長文長に依存する
  - 短い文はパディングされて、最長文長となる。
- 改善案 [Sutskever et al., 2014; Bahdanau et al., 2015]
  - 事前にコーパスを文長でソートする
  - ソートすることで、近い文長が一つのミニバッチに固まる
  - パディングが減り、学習速度向上につながる

# 現在の問題

- ほぼ全てのツールが先行研究を信じてコーパスをソート
  - 確かに1イテレーションにかかる時間は短い
  - でも、ソートした際の収束時間は？
  - 色々なソート手法があるけど、結局どれが良いの？
- 様々なミニバッチ作成手法を各ツールが独自に実装
  - 誰もその影響を調査していない

# 本研究の目的

- ミニバッチ構成法の違いが  
NMTの学習に与える影響を調査
- 最善のミニバッチ構成法を調査

# 本研究で比較するミニバッチ構成法



- コーパスのソート手法
  - ソート時の基準
- ミニバッチサイズ
  - 一つのミニバッチに含まれる文数
- ミニバッチサイズの単位
  - ミニバッチサイズを決定する基準
  - 文数 or 目的言語文の単語数

# コーパスのソート手法

# コーパスのソート手法

- 先行研究「コーパスはソートした方が良い」
  - ソートの種類はいろいろ
- 本研究では5つのソート手法を比較する

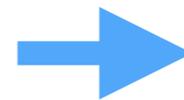
# コーパスのソート手法

- 検討するソート手法
  - shuffle: ソートせずコーパスをシャッフル

**src**



**trg**



**src**



**trg**



# コーパスのソート手法

- 検討するソート手法
  - src: 原言語文長に従いコーパスをソート
  - trg: 目的言語文長に従いコーパスをソート

**src**



**trg**



**src**



**trg**



**src**



**trg**



# コーパスのソート手法

- 検討するソート手法
  - src\_trg: 原言語文長に従いコーパスをソート  
文長が同じ場合は目的言語文長に従いソート
  - trg\_src: 上記の逆

**src**



**trg**



**src**



**trg**

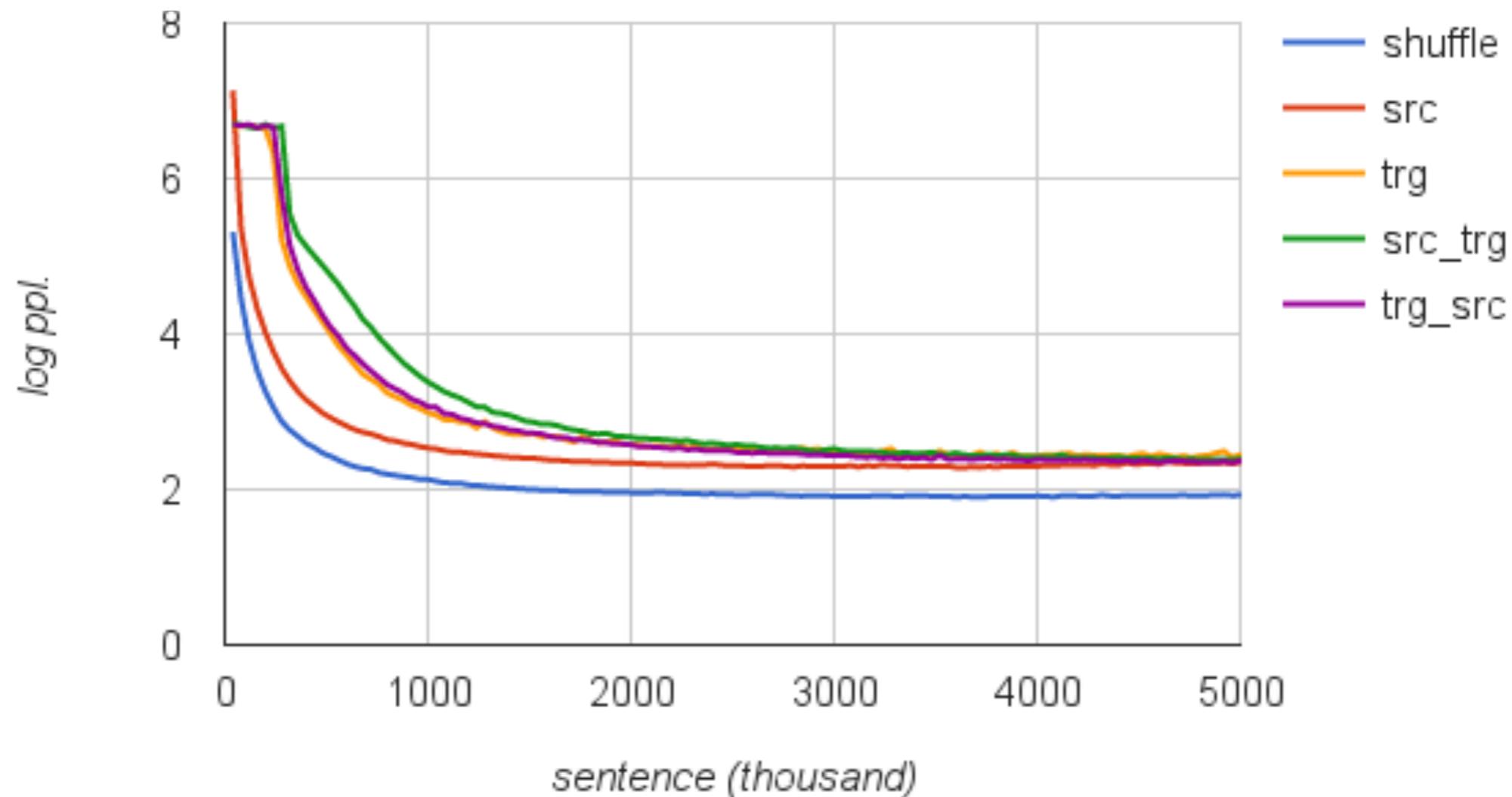


# 実験設定

- 使用コーパス: ASPEC (英日) 200万文
- 単語分割: Moses tokenizer, KyTea
- NMTモデル: Luong et al., 2015
  - + Global attention
  - + Input feeding
  - + Bi-directional encoder
  - + dropout (30%)
- 語彙数: 65536
- LSTM Unit数: 各layer 512
- 学習アルゴリズム: Adam( $\alpha=0.001$ )
- 初期値は固定

# 影響: コーパスのソート手法 (Adam)

64 sentences, Adam

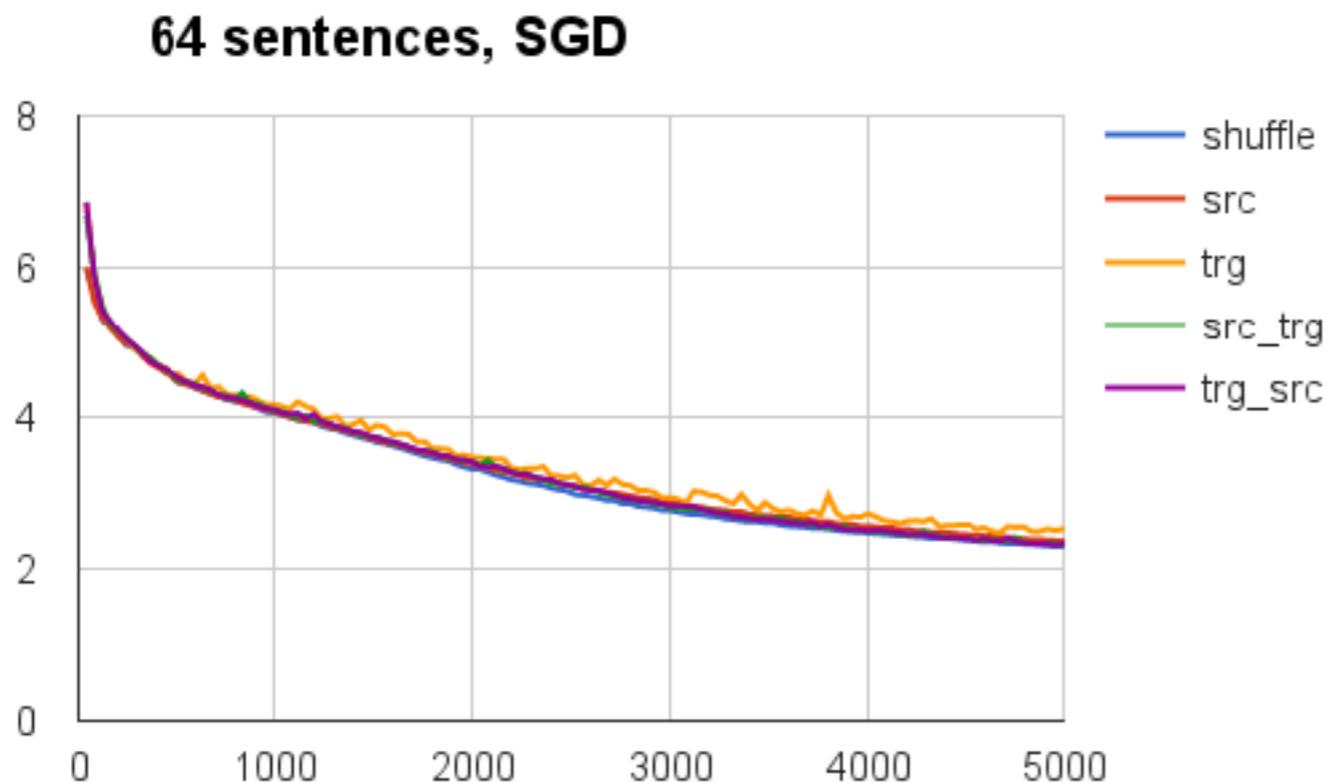


- shuffle (青線) がPerplexityが低い  
- これまでの結果とは真逆に

# 影響: コーパスのソート手法 (Adam)

- shuffle, srcが良い理由
  - trgでソート→目的言語文のパディング回数が減る
    - 文末を表すトークンの数が減る
    - 推定精度の低下?
- ソートすると良くない?
  - 文長が類似している文 → 文の特徴も類似?
  - ソートすることで1つのミニバッチに
    - 類似した文が集まり局所解に?

# 影響: コーパスのソート手法 (SGD)



ソート手法	平均必要時間 (hour)
shuffle	8.08
src	6.45
trg	5.21
src_trg	4.35
trg_src	4.30

- SGDではソート手法によらず安定した収束
  - 1回の学習にかかる時間が短いtrg\_srcが良い
  - 学習アルゴリズムによって最適なミニバッチ構成法が違う

ミニバッチサイズ

# ミニバッチサイズ

- 一つのミニバッチに含まれる文数
- ミニバッチサイズ→大
  - より多くのデータを用いて平均lossを計算
  - 勾配更新の安定化
  - 計算効率向上

# 実験設定

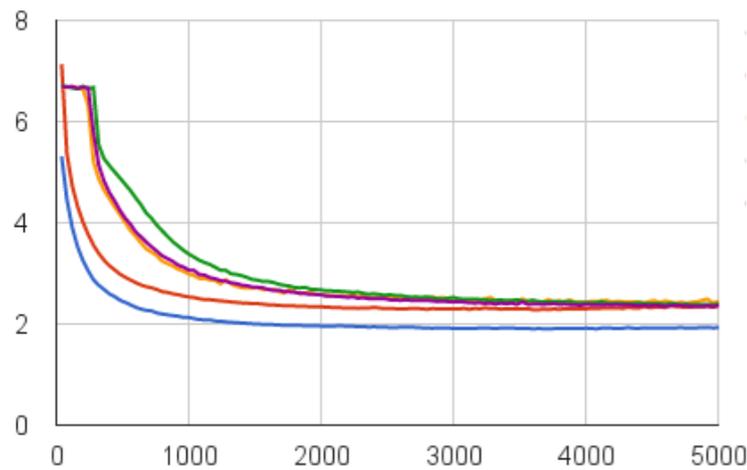
- 比較する実験設定

	ミニバッチ構成法	学習アルゴリズム
(a)	64 sentences	Adam
(b)	32 sentences	Adam
(c)	16 sentences	Adam
(d)	8 sentences	Adam

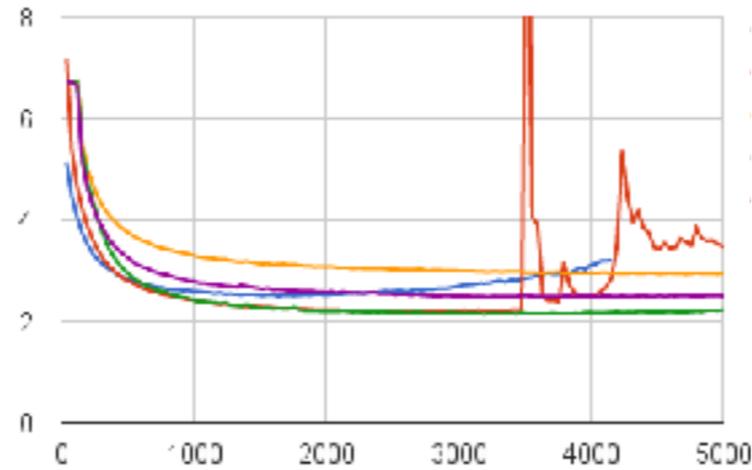
- それぞれで、全てのソート手法を比較する

# 影響: ミニバッチサイズ

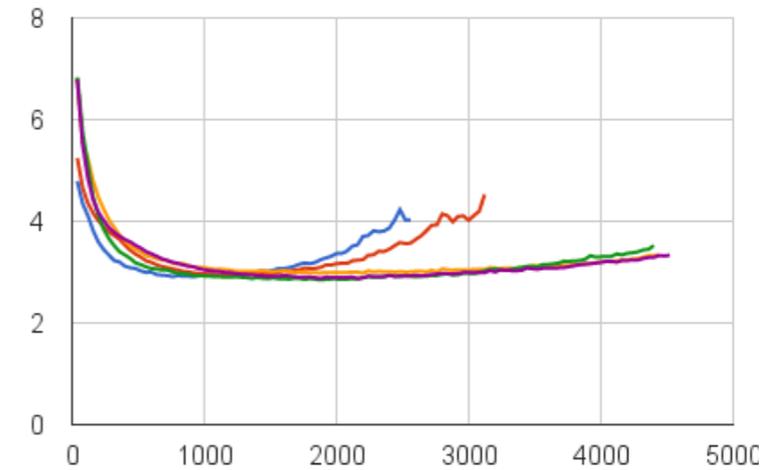
(a) 64 sentences, Adam



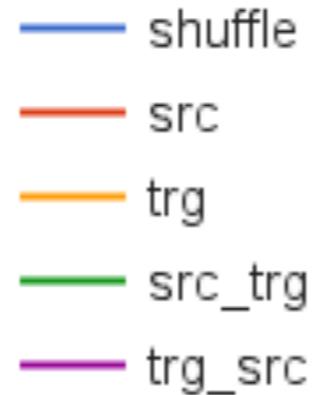
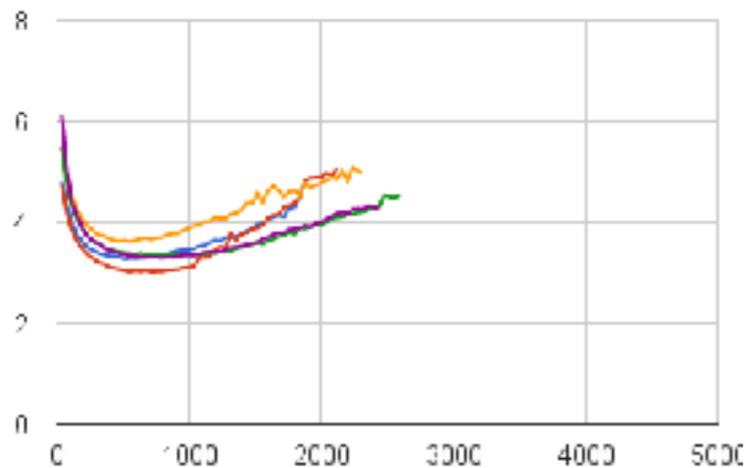
(b) 32 sentences, Adam



(c) 16 sentences, Adam



(d) 8 sentences, Adam



- ミニバッチサイズ大 → 低Perplexity
- ミニバッチは大きい方が良い？

# ミニバッチサイズの単位

# ミニバッチサイズの単位

- ミニバッチサイズを決定する単位
- 本研究で検討する単位
  - 含まれる文数
  - 含まれる目的言語単語数

# ミニバッチサイズの単位

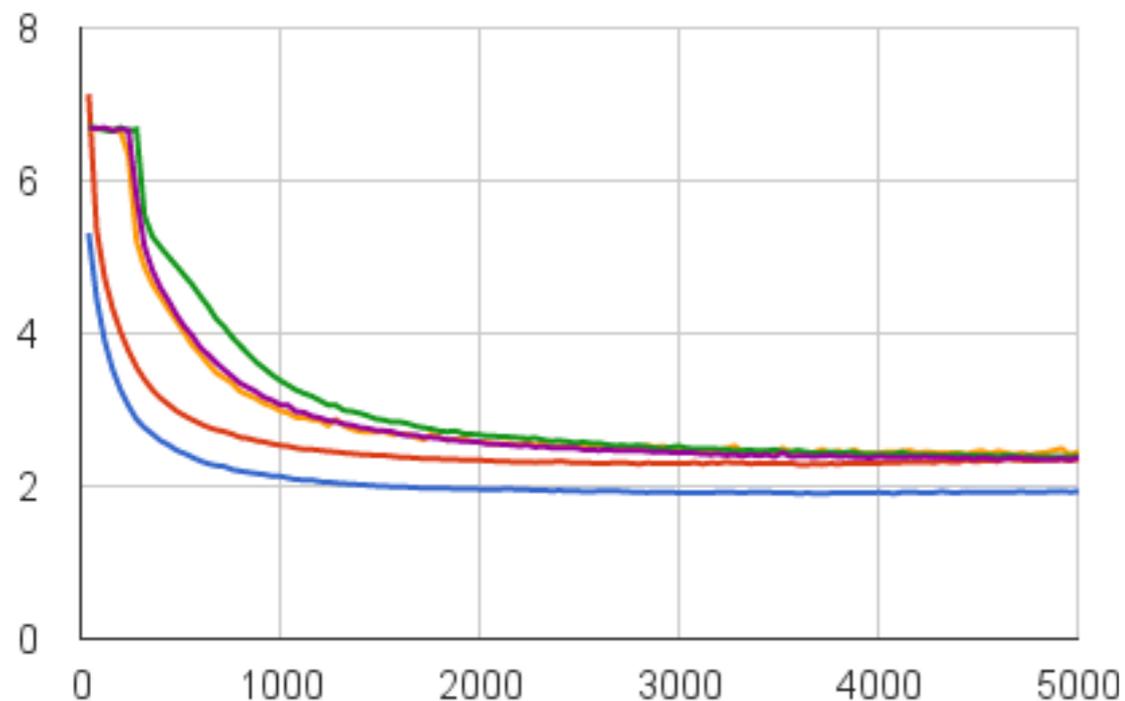
- **文数**
  - 最も標準的
  - 現状のツールの大半はこれを使用
- **想定されるデメリット**
  - 各ミニバッチでloss計算回数が一定でない  
(lossの計算回数 = 目的言語単語数)
  - ミニバッチ間でlossの値がばらつく
  - AdamなどMomentumを使用する  
学習アルゴリズム使用時に悪影響が出る？

# ミニバッチサイズの単位

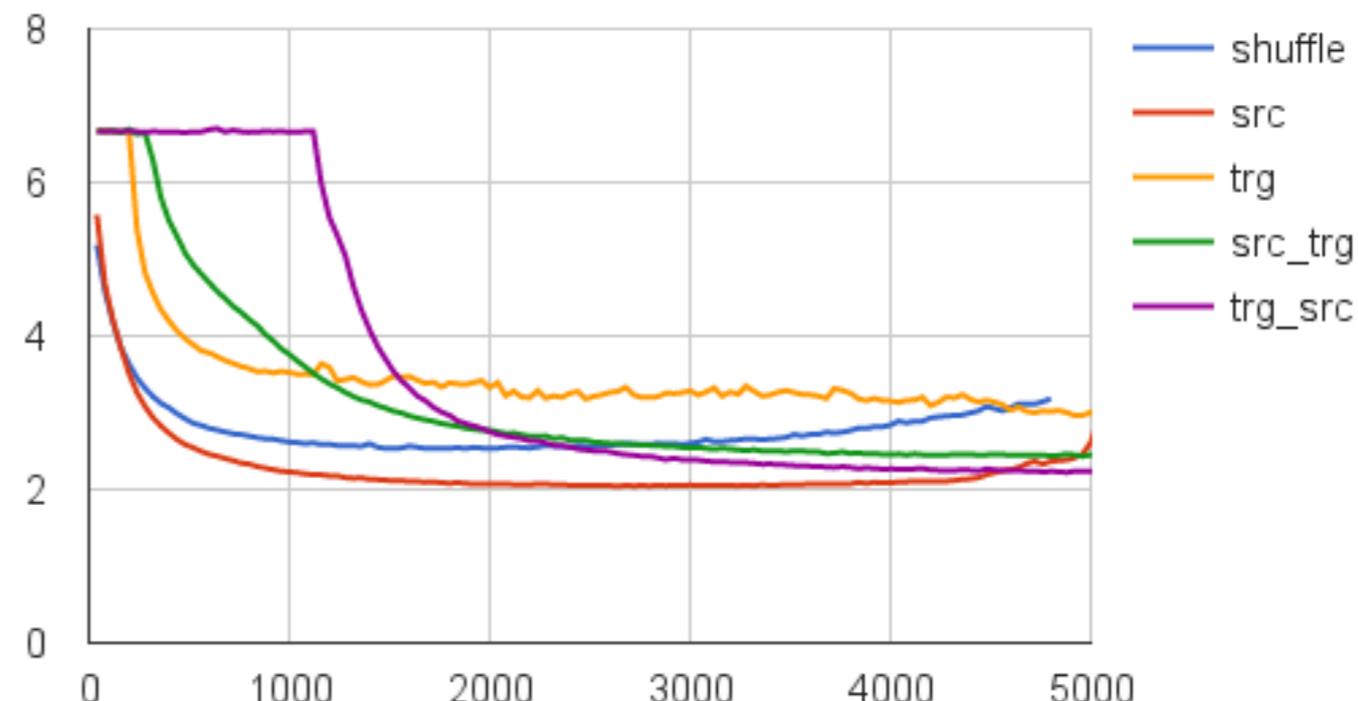
- **目的言語文の単語数**
  - 使用しているツールは非常に少ない
- **想定されるメリット**
  - 各ミニバッチでloss計算回数が一定になる
  - 使用するメモリ量が一定になる

# 影響: ミニバッチサイズの単位

(a) 64 sentences, Adam



(e) 2055 words, Adam



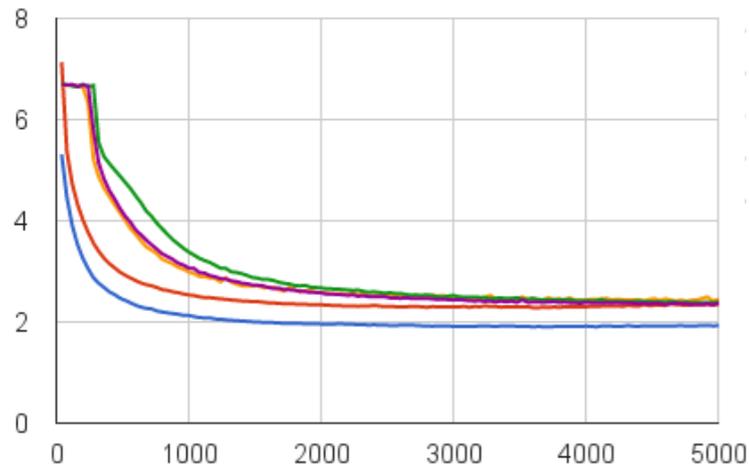
- ソート手法の差はあるものの、  
(a)のshuffle (青線) と (b)のsrc (赤線) はほぼ同じ挙動
- ミニバッチサイズの単位は速度および精度に  
大きな影響をおよぼさない

# まとめ

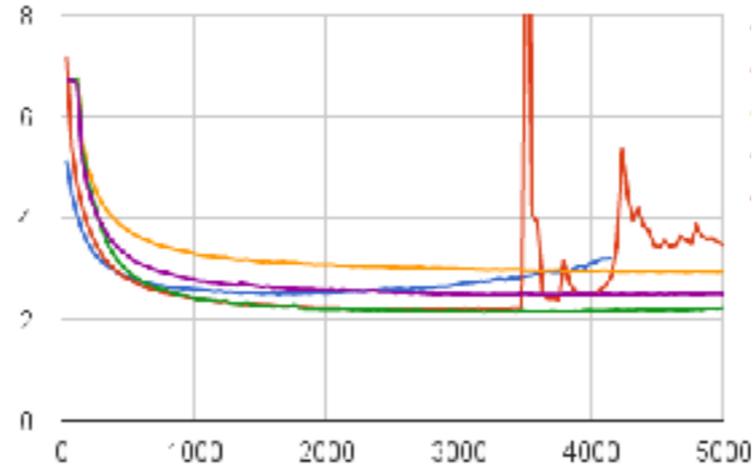
- ミニバッチの構成法は学習に大きく影響を与える
  - 学習時にはミニバッチの構成法も考慮すべき
- ソート手法
  - Adam: shuffle, src がおすすめ
  - SGD: trg\_src がおすすめ
- ミニバッチサイズ
  - 処理速度だけでなく、精度にも影響する可能性
- 今後の課題
  - 他のコーパス, 学習アルゴリズムでの比較

# 影響: コーパスのソート手法 (Adam)

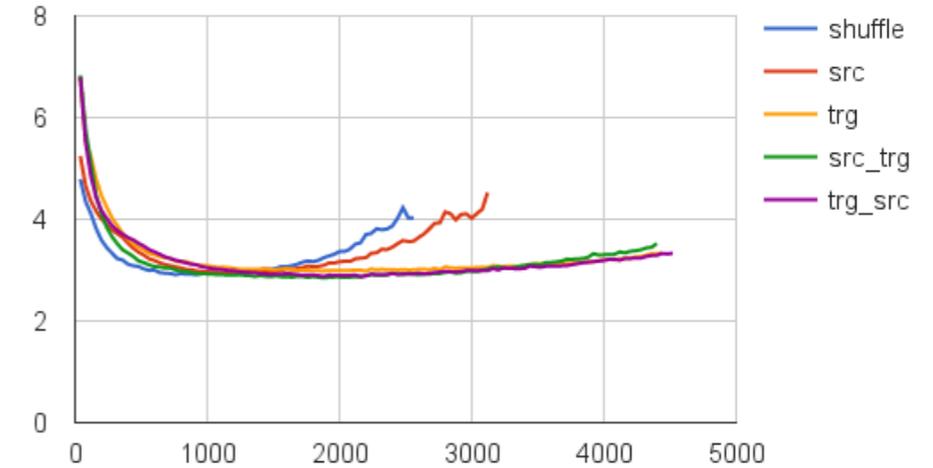
(a) 64 sentences, Adam



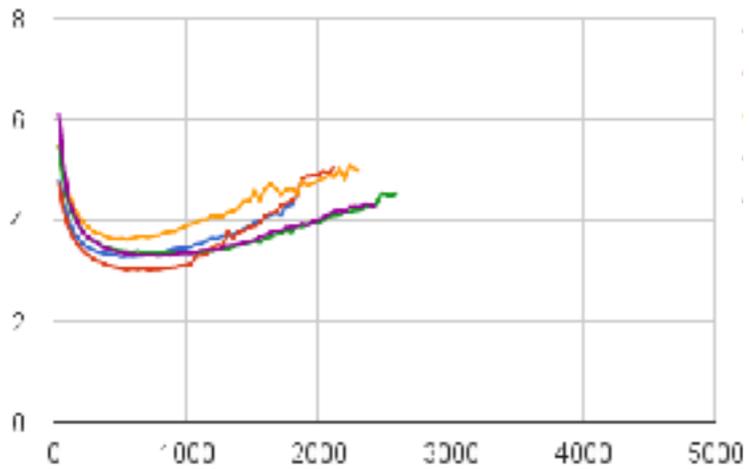
(b) 32 sentences, Adam



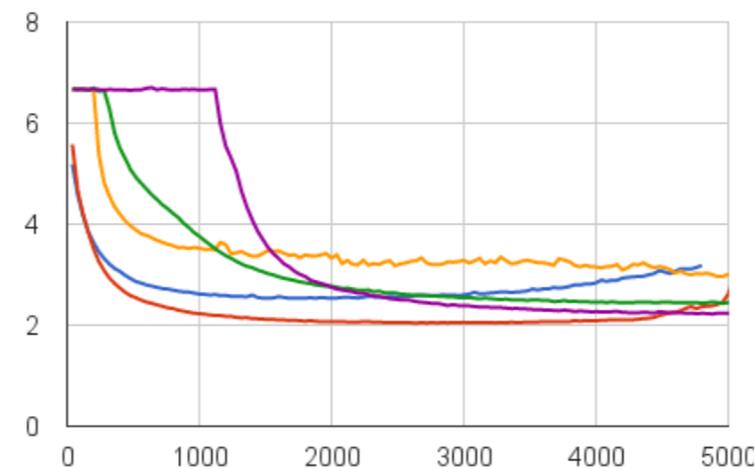
(c) 16 sentences, Adam



(d) 8 sentences, Adam



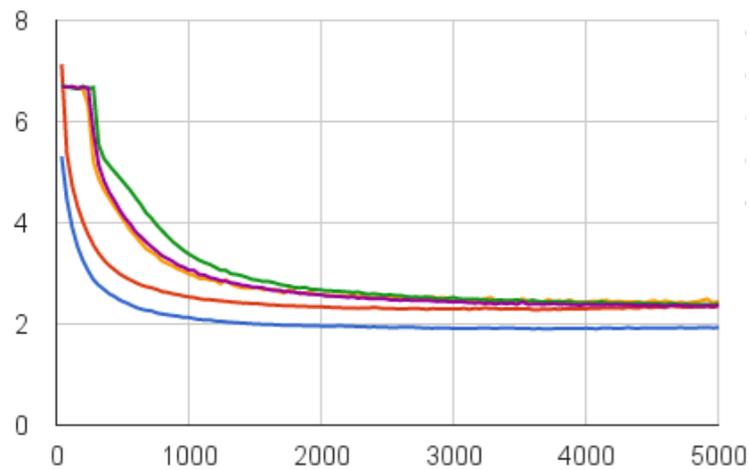
(e) 2055 words, Adam



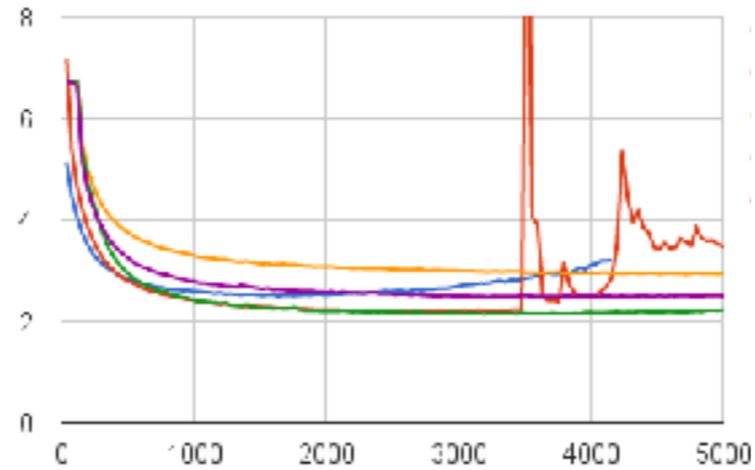
- 全ての実験の共通点
  - shuffle (青線) または src (赤線) がPerplexityが低い

# TestセットのPerplexity

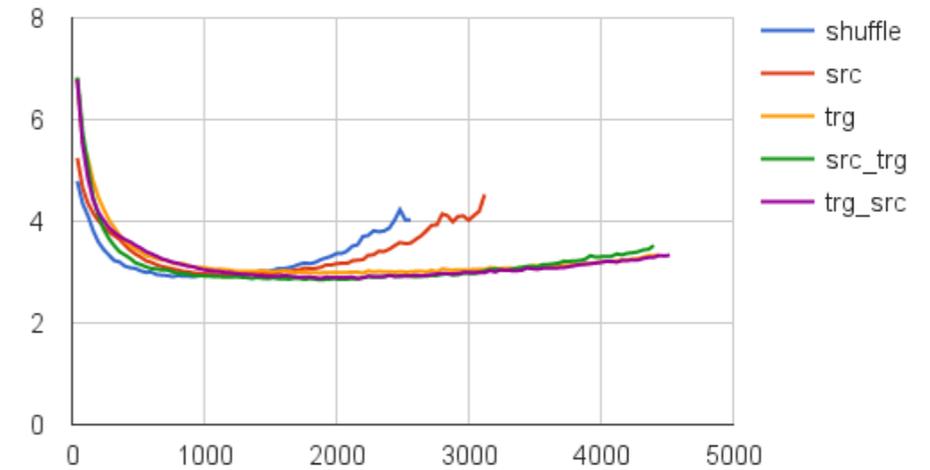
(a) 64 sentences, Adam



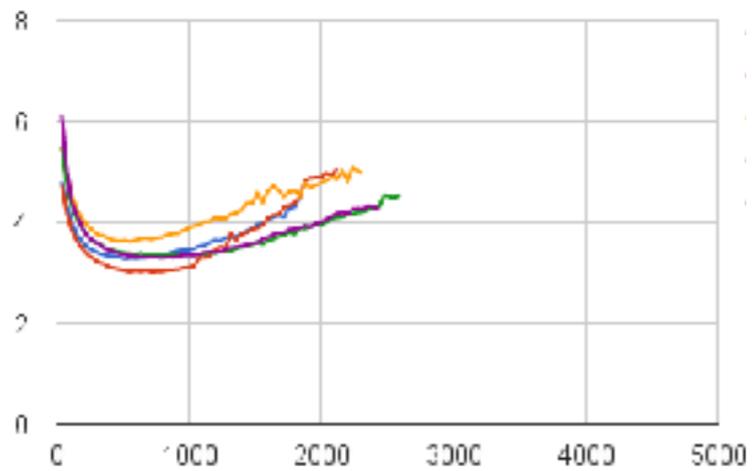
(b) 32 sentences, Adam



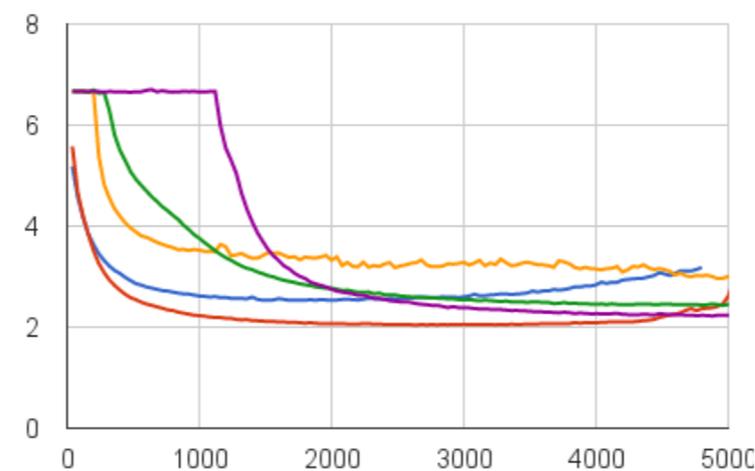
(c) 16 sentences, Adam



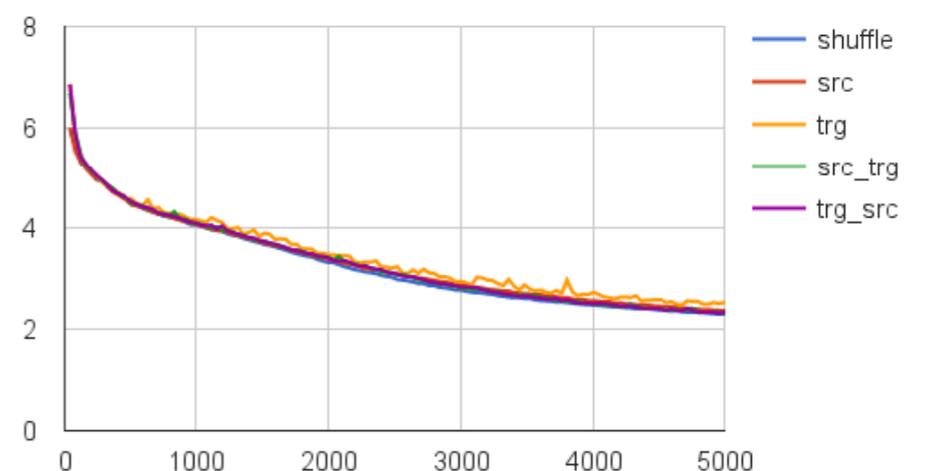
(d) 8 sentences, Adam



(e) 2055 words, Adam



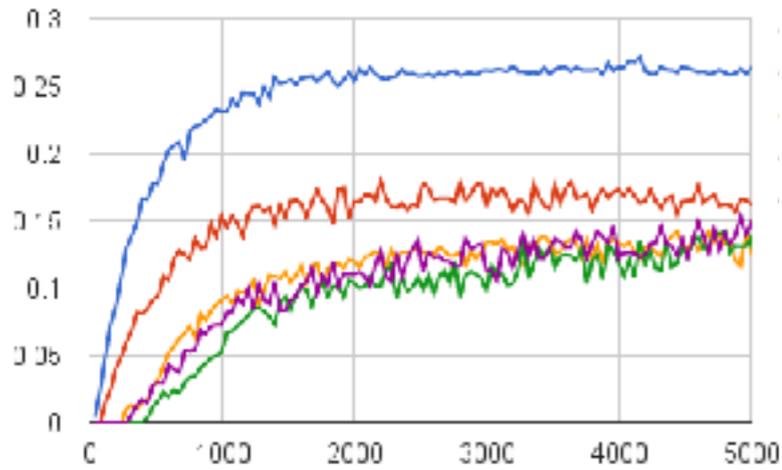
(f) 64 sentences, SGD



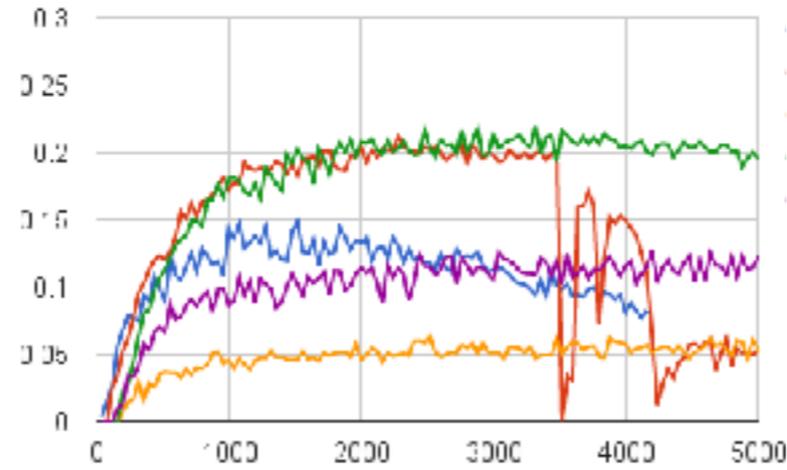
- 縦軸: log perplexity
- 横軸: 学習文数

# TestセットのBLEU

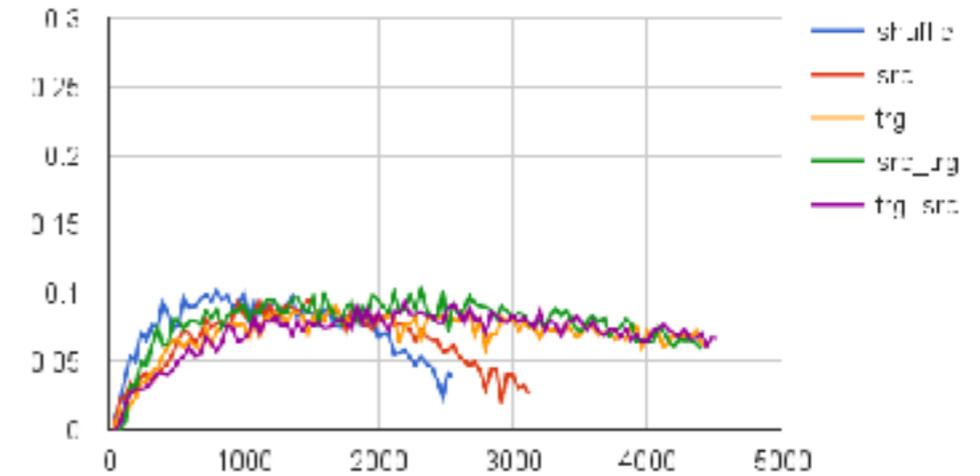
(a) 64 sentences, Adam



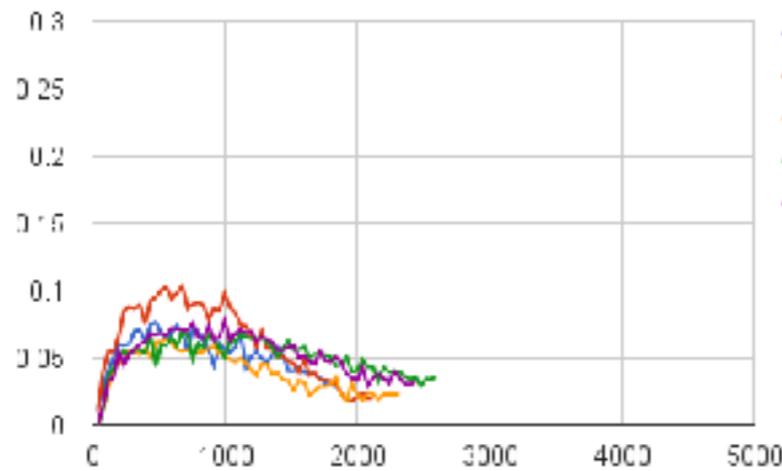
(b) 32 sentences, Adam



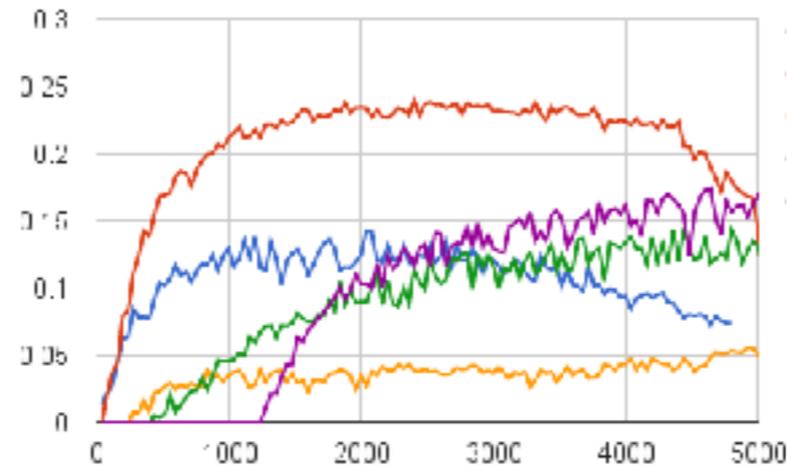
(c) 16 sentences, Adam



(d) 8 sentences, Adam



(e) 2055 words, Adam



(f) 64 sentences, SGD

